

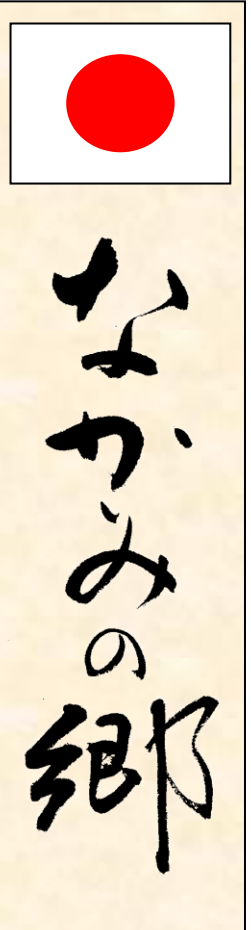


檜の香も芳しい内宮の御稲御倉（みしねのみくら）

神田で収穫した稲穂を納める社殿で御稲御倉神を祀る。社殿様式は御正殿と同じ「唯一神明造」。御正殿よりも規模が小さく高欄も廻らされていないが、間近にその特徴を窺うことができる。

先月、伊勢の神宮において第六十二回式年遷宮が行われました。十月二日には内宮（皇大神宮）、同五日には外宮（豊受大神宮）の遷御の儀が、それぞれ勅使（天皇陛下のお使い）参向のもと厳そかに執り行われました。

伊勢神宮 第六十二回式年遷宮



祝祭日は国旗「日の丸」を揚げましょう

君が代は 千代に八千代に
さざれ石の いわおとなりて
こけのむすまで

第14号
平成25年
11月15日発行
奈加美神社
泉佐野市中庄 834
電話 462-7080

幸運にも外宮の遷御の儀、また翌日の奉幣の儀（天皇陛下からの幣帛というお供物を奉獻する神事）に参列させて頂きました。
内宮の遷御の儀はテレビ中継でご覧になった方も多いかと思えます。超高感度ハイビジョンなるカメラの向上により、非常によく映っていましたので、実際に参列するよりもお茶の間のテレビの方がよく見えたかと思えます。遷御は浄闇（清らかな闇夜）のなかで行われるので、ほとんど目にすることはできませんでしたが、緊張感ただようなか大御神が新宮に遷り行く様、その厳かさ、その場に居合わせた感動は、言葉には表しがたく、ただただ「ありがたい」の一言に尽きます。
この式年遷宮は全国から多くの浄財を募り、約八年の歳月をかけて諸準備が進められ、数々の諸祭儀が行われ、大御神に新宮にお遷り頂きます。
千三百年前の遙か昔から受継がれてきた、日本人の「こころ」を「かたち」に現した大御神への最高の「おもてなし」であり、その原点ともいえるでしょう。二十年に一度、大御神の御神威の更新、甦りを願ひ、その恩恵により森羅万象あらゆるものの息吹の甦り、



大宮司、少宮司、禰宜、権禰宜の参進

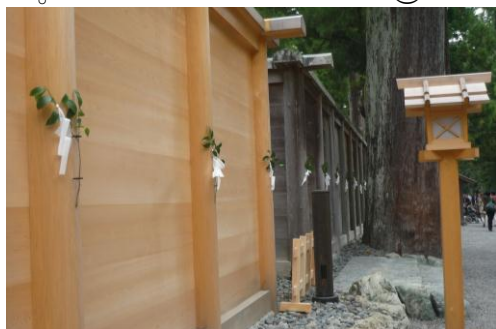
若返りを願う。これを常若（とこわか）の精神といえます。
わが国日本はこのところ政権も安定し、東京オリピックも決まり、明るい兆しが見えてきました。このご遷宮により神国・日本が甦り、いよいよ栄え行くことを願うばかりです。

西行法師
何ごとの おはしますかは 知らねども
かたじけなきに 涙こぼるる

外宮について

外宮の豊受大御神は、今から約千五百年前に丹波の国から迎え、内宮の天照大御神の御饌津神（みけつかみ）として鎮座しました。

御饌津神とは食物をつかさどる神で、外宮には御饌殿（みけでん）という社殿があり、日毎朝夕大御饌祭（ひごとあさゆうおのみけさ）とあさゆうおのみけさい（い）が朝夕の二度行われていきます。これは天照大御神の朝夕のお食事、ご鎮座以来千五百年、雨の日も風の日も雪の日も絶えることなく続くられています。



外宮 新・旧の板垣

来年は甲午（きのえうま）のうま年です。拝殿左手前の青銅製の神馬、これは昭和六十年の本殿修復事業の際に奉納頂いたもので、なかなか立派な神馬です。参拝者にはなぜ神社に馬があるの？

神馬から絵馬へ

朝よひに 物くふごとに 豊受の
神のめぐみを 思へ世の人

伊勢参宮のお知らせ

平成26年3月に伊勢参宮日帰りバスツアーを企画します。遷宮の翌年はおかげ年。奈加美神社伊勢参宮団にご参加下さい。
日程 3月上旬を予定
行程 外宮正式参拝（御垣内参拝、旧御正宮見学、神楽殿にて御神楽奉拝、せんぐう館見学）一昼食一 内宮自由参拝（おかげ横丁散策）
決まり次第神社にて案内を掲示配布します。詳しくはお問合せ下さい。

外宮に参らにや片参り

伊勢参宮は外宮から参拝するのが慣わしですが、最近では先に内宮を参拝して、おかげ横丁でお土産を買って帰ってしまうケースが多いようです。天照大御神が「われを祀るには豊受大御神を先に」とおっしゃったという伝承があり、「外宮先祭」という言葉があります。伊勢にお参りになられる際には、ぜひ外宮・内宮、両宮ともお参り下さい。そのほかにも倭姫宮、月読宮などの別宮もお参りされてみてはいかがでしょうか。

とよく尋ねられます。古くから祈雨や止雨などの祈願のために生きた馬を神々に献上する習わしがあり、神々の乗り物として大切にされてきました。その後、木製の神馬や、板に馬を描いた絵馬が奉納されるようになり、そして絵馬にも馬以外のものが描かれたりするようになり、現在の祈願絵馬へと変遷していきます。



ちなみに奈加美神社の祈願絵馬は、泉州名物・水なすで、「成就なす」といいます。なすは「ナス」「為す」「成る」と音の響き、また良く実を結ぶ事から願いが叶う「成就」にも通じます。

為せば成る
為さねば成らぬ 何事も
成らぬは人の
為さぬなりけり

この歌は、名君の誉れ高い第九代米沢藩主・上杉鷹山が、藩主の心得「伝国の辞」とともに第十代藩主治広に伝えた訓言といわれています。人は神仏に感謝を捧げ無事を祈り、諸願成就を願って手を合わせますが、物事が成就するには不断の努力が必要です。願いと努力が神仏に通じた時、はじめて物事が成就します。お正月にはこの「成就なす」に祈願をしたため、神さまに抱負を誓い、充実した一年を過ごしましょう。



ご祈祷のご案内

結婚式・お宮参り・安産祈願
七五三・回除け・車のお祓い
地鎮祭・住宅入居のお祓い
神道家霊祭等、各種お祓い
受付致しております
お電話にてご予約お申込み
下さい

公式ホームページ開設
<http://www.nakami.org>

神道豆知識 ～其の九～ 三種の神器



三種の神器とは八咫鏡（やたのかがみ）、天叢雲劍（あめのむらくものつるぎ）、八坂瓊勾玉（やさかにのまがたま）のことをいいます。記紀神話で、天照大御神が天の岩屋にお隠れになられた際、岩屋の外にお出まし頂くための祭りに用いられたものです。

八咫鏡は天照大御神のご神体として伊勢神宮の内宮にまつられ、天叢雲劍は熱田神宮にまつられています。宮中の賢所には八咫鏡のご分身が、御所内には天叢雲劍のご分身と八坂瓊勾玉の本体が安置されています。

鏡・玉・劍はそれぞれ智・仁・勇の三徳を表すとされ、天照大御神が天孫降臨に際して、天孫・邇邇藝命（ににぎのみこと）に授け、末永く日本の国を治めるようにとの天壤無窮（てんじょうむきゅう）の神勅を下され、以後皇位の継承とともに連綿と引き継がれて、現在にいたっています。